

第34回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和4年5月27日（金）10:00～
場 所	各務原市役所 産業文化センター 2階第3特別会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】(敬称略)</p> <p>大野 淳 (名鉄バス株式会社営業本部運行部運行課運行課長)(代理:上原 真人)</p> <p>小澤 秀彦 (名古屋鉄道株式会社地域活性化推進本部地域連携部付部長兼岐阜エリア担当)(代理:花村 元気)</p> <p>石井 靖治 (岐阜交通東部株式会社代表取締役)</p> <p>小島 康史 (岐阜県タクシー協会岐阜支部支部長)(代理:片山 義吉)</p> <p>林 直樹 ((公社)岐阜県バス協会専務理事)(代理:木村 治史)</p> <p>篠田 勲 (那加自治会連合会長)</p> <p>木村 徹之 (稲羽川島自治会連合会長)</p> <p>大栗 秀男 (鵜沼自治会連合会長)</p> <p>近藤 亜矢子 (子ども子育て会議委員)</p> <p>清水 孝子 (八木山地区社協事務局長)</p> <p>渥美 宏 (中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>永治 勝 (岐阜国道事務所管理第一課長)</p> <p>棚橋 典広 (岐阜土木事務所施設管理課長)</p> <p>佐藤 智紀 (岐阜県都市建築部公共交通課長)(代理:吉田 佳史)</p> <p>五十川 玲子 (各務原市議会経済教育常任委員長)</p> <p>各務 英雄 (各務原商工会議所専務理事)</p> <p>加藤 博巳 (株式会社アイシン CSS カンパニービジネスプロモーション部部长)</p> <p>川端 光昭 (岐阜工業高等専門学校環境都市工学科准教授)</p> <p>小鍋 泰弘 (各務原市副市長)</p> <p>【事務局】 各務原市 産業活力部公共交通政策室</p>

・委員長あいさつ

・議事

- ① 各務原市地域公共交通会議の設置規約について
- ② 令和3年度決算及び事業報告について
- ③ 令和4年度予算及び事業計画について
- ④ 地域内フィーダー系統確保維持計画の申請について
- ⑤-1 チョイソコかかみがはらについて(鵜沼南エリアの本格運行について)
- ⑤-2 チョイソコかかみがはらについて(須衛・各務・八木山エリアへの導入について)
- ⑥ 新型コロナワクチン接種(第4回目)に伴う移動支援事業について

・報告

- ① 令和3年度利用状況の報告について
- ③ 令和5年度の改正案について(概要)

・その他

■委員長あいさつ

委員長 挨拶

本日は、「第34回各務原市地域公共交通会議」にご出席いただき誠にありがとうございます。
地域公共交通会議は、公共交通を幅広い分野からお集まりいただいた委員の皆様が顔をあわせて決めていく会議であります。

最近の公共交通事業に関しましては、まずもって過日4月1日の、岐阜バス様の「笠松川島線」の運行開始があります。当市としても運行開始に向けて支援事業を展開させていただきましたが、引き続き地域に根付いた路線となるようお互いに連携を図りながら継続的な運行が出来たらと存じます。

さて、今年10月には、チョイソコの須衛・各務・八木山エリアへの展開を予定しており、ふれあいタクシーエリアのさらなる利便向上を図るとともに、高齢者の多い丘陵団地である八木山団地への導入を通して、高齢化が進む中で今後チョイソコがどのように利用されていくのかをしっかりと見極めてまいります。

既にエリア内に立地する地域の医療機関やスーパーなどの店舗などにもスポンサーのお声がけをさせていただき、いくつか契約をいただいております。

チョイソコ事業への期待の表れでもあると考えておりますので、地域のご期待に沿えるようしっかりと準備や調整を進めてまいりたいと存じます。

高齢化や人口減少といった社会情勢、フレイル予防や都市計画といった公共交通と関連の強い施策とも連携した改正を推し進めてまいりますので、皆さまのご知見をお借りしながら、一つずつ着実に積み上げて形として行きたいと考えております。

それでは、今申し上げた内容も含めて、地域を支える移動手段として、各議事や報告事項の取組について、活発なご意見をいただきますようどうぞよろしく願いいたします。

■議事

- ・議事① 各務原市地域公共交通会議の設置規約について

※委員からの質問や意見は、なし

- ・議事② 令和3年度決算及び事業報告について
- ・議事③ 令和4年度予算及び事業計画について

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<稲羽川島自治会連合会長 木村委員> ・今年度予算の収入のうち、市からの負担金が大きく減少しているが、なぜか。	<事務局> ・今年度は、例年行ってきた調査委託事業の実施予定がなく、委託料を大幅に減少させたため、負担金が減っている。

・議事④ 地域内フィーダー系統確保維持計画の申請について

報告・意見	
<p><岐阜運輸支局 渥美委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助を出す路線は、地域公共交通のネットワークを木に例えて、市町をまたいだ幹線（木の幹）および幹線に繋がるフィーダー系統（木の枝）としている。 ・計画に「令和5年度」とあるがバスの補助は10月～9月を1つの区切りとするため、令和4年10月～令和5年9月のことを指す。 ・計画を国に承認されると、補助の対象となるといった仕組みである。 	

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p><岐阜工業高等専門学校 川端委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョイソコ須衛・各務・八木山エリアの運行についての記述があるが、実証運行と本格運行どちらで実施するのか。 	<p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行事業者には、乗合の許認可（4条）を取っていただき本格運行で実施する。適宜、改正が必要と思われるところがあれば、改正していく。

・議事⑤-1 チョイソコかかみがはらについて（鵜沼南エリアの本格運行について）

報告・意見	
<p><岐阜交通東部 石井委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証運行では、新型コロナウイルスの影響もあり、初めは利用実績が伸び悩んだが今は増加している。今後も安全に努めて運行していきたい。 	

・議事⑤-2 チョイソコかかみがはらについて（須衛・各務・八木山エリアへの導入について）

報告・意見	
<p><八木山地区社協 清水委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・松が丘1～3丁目では停留場が遠く、ふれあいバスが乗りにくい地区からの要望があった中、チョイソコの導入はありがたい。 ・ただ、令和5年度秋の改正ダイヤ原案では、ふれあいバスが停まらない時間があるということを周知した上で、チョイソコで移動できるということも周知したい。 	
<p><株式会社アイシン 加藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョイソコを開始して4年がたち、全国で30ほどの自治体が導入している。チョイソコは、継続性が確保されているが、現状の搭乗率ではまだまだ足りないと感じる。イベントでの会員募集等を、コロナが落ち着いたタイミングで行っていきたい。 ・現在、大学病院等と一緒に高齢者が外に出たら本当に健康になるのかを実証する取り組みを実施しており、具体的な数字として表れてきているので、是非、共有したい。 	

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p><岐阜交通東部 石井委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいタクシーを7年間運行し、物損事故はあったが人身事故はなく、安全に運行ができているため、運行終了まで引き続き安全を守っていきたい。 ・チョイソコ導入後も、ふれあいタクシーの電話番号に連絡される方がいらっしゃると思われるため、現在の利用者への周知を確実にやっていただきたい。 	<p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョイソコを導入することにより、運行時間が短くなるため、現在の利用者においては個別にフォローしていく。 ・現在のふれあいタクシー利用者の方にはサービスの違いについてチラシなどを用意し、混乱が起きないように配慮する <p>該当エリアには、住民説明会を公民館単位で開催するなどきめ細やかな説明を実施していく。</p>

- ・議事⑥ 新型コロナワクチン接種（第4回目）に伴う移動支援事業について
- ※委員からの質問や意見は、なし

■ 報告

- ・報告① 令和3年度利用状況の報告について

報告・意見
<p><稲羽川島自治会連合会長 木村委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいバス川島線の利用が増えたのは、高校へ通う川島地区の子どもたちが雨の日利用しているのも要因の1つと考えられる。 ・事務局が積極的に中学校で高校進学後の公共交通利用のPRを積極的にしているのが良かった。 ・笠松川島線については、もっと利用してほしいと地域内の利用者の方が掲示を作成しており、川島市民サービスセンターへ掲示している。

- ・報告② 令和5年度の改正案について（概要）

報告・意見
<p><鵜沼自治会連合会長 大栗委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分事として考えて、運転免許証を自主返納した際に、便利な公共交通があるといいと思う。公共交通サービスと免許証自主返納支援が連携できるといいと思う。
<p><八木山地区社協 清水委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字上でも高齢化が進んでいるが、その実状は足腰が弱く病弱で、移動に困難がある人多い。八木山地区では、支えあい活動を盛んに行っているが、介護関係が増えているのが現状。個別の申込に応じて、介助をつけてどこでも移動している。

<子ども子育て会議 近藤委員>

- ・利用案内や協定に、「未就学児は2人まで無料」とあるが、子育て世代を応援する観点からも人数制限をかけるのではなく、何人でも無料にしてほしい。
- ・夏休みなどに、子どもへの無料キャンペーンを検討してほしい。

■その他

- ・名鉄「Cent X」について

報告

<名古屋鉄道株式会社 小澤委員（代理：花村委員）>

お出かけを便利に楽しくし、移動して経済を回すために外出サポートのためのアプリをリリースした。アプリの特徴としては、①経路検索が可能、②お出かけ情報の表示、③デジタルチケットの販売の3つが主となっている。岐阜バスのホリデーパス等とも連携し、地域公共交通の利用を促進していきたい。

- ・岐阜交通東部「中部国際医療センター」シャトルバスについて

報告

<岐阜交通東部 石井委員>

今年の1月から中部国際医療センター（美濃加茂市）行のシャトルバスの運行をしている。5月23日から、新鵜沼駅からふれあいバス停留所の近くに停車し、1日3本運行している。関心があれば、ウェブサイトチラシがあるので、ご覧いただき利用していただきたい。

■総括

川端先生 総括・指摘事項

- ・公共交通会議では、フィーダー交通が議論の中心となるが、鉄道や乗用タクシーを含め、本日の子育て世代からの観点など、幅広い分野からの日常の気づきを共有していただくと会議が活性化する。
- ・各務原市では、地域公共交通網形成計画を定めているため、是非、ご一読いただければと思う。